令和4年度(2022年度) 小平市民活動支援センターあすぴあ 管理運営事業報告









令和 5 年(2023年) 5 月 小平市民活動支援センターあすぴあ指定管理者 特定非営利活動法人 小平市民活動ネットワーク



目 次

事業終	8括	
令和 4	 年度事業計画および事業総括	1
施設・ 1.	設備の利用状況 登録団体 ····································	3
2.	施設および備品の利用状況	4
車業/		
₱未♡	<u>フ夫旭仏元</u> あすぴあの組織図 ····································	8
1.	学習および交流の機会の提供	9
2.	市民活動の裾野の拡大事業 こだいら人財の森	1 6
3.	市民活動に関する情報の収集および提供	1 7
4.	問合せ・相談・支援	23
5.	利用者の要望・意見の把握	23
6.	他機関・施設・組織との情報交換やネットワークづくり	2 9
7.	市外の諸機関との情報交換・交流	3 1
8.	施設見学の受け入れ等	3 1
9.	職員・理事・事業部会員の市民活動支援力の向上	3 1
10.	登録団体一覧	3 2
11.	経費の収支状況	3 6

事業総括

■令和 4 年度事業計画

市民活動に大きな影響を及ぼした新型コロナウィルス感染拡大の収束がなかなか見えてこない状況でしたが、そのような中でも、さまざまにチャレンジする市民活動団体および関心ある市民をサポートするという基本的な考え方のもとに、年度方針および事業計画を以下のようにしました。

方針 I コロナ禍中、あるいはコロナ収束期に必要となる支援を行う

- 計画 1 コロナ禍におけるオンライン活動の支援
- 計画2 リアル活動(オフライン活動、対面活動)への支援
- 計画3 コロナ禍での市民活動の支援
- 計画4 新しい団体、活動を広げる団体への支援
- 計画 5 SDGsの「誰一人取り残さない」を目指す市民活動の推進と支援

方針 Ⅱ つなぐ役割の拡大・充実と、市民活動のさらなる推進を図る

- 計画 1 市民活動パワーアップ講座、講演会、市民活動交流サロン等の開催
- 計画 2 市民の参画によるオンライン併用の「元気村まつり」の実施
- 計画 3 市民目線に立ったタイムリーな広報、「あすぴあ通信」・ホームページ・メールマガジン・Facebook・情報紙「連」のあすぴあだよりページ等、様々な広報媒体を連携させた広報活動の実施、および出張広報アクション等広報拠点の拡大検討
- 計画4「こだいら人財の森」事業の充実と積極的活用推進
- 計画 5 市民活動団体データ集『むすぶ』の充実
- 計画 6 相談活動の充実
- 計画 7 他機関・施設・組織との情報交換、連携、ネットワークづくり
- 計画 8 中間支援の関連団体、組織との連携
- 計画9 未来を担う世代を含めたネットワークの拡大
- 計画 10 あすびあ事業への市民参画の推進

方針 Ⅲ 中間支援組織としての基盤整備を進める

- 計画1 施設・設備の効果的運用
- 計画 2 利用者の立場に立った心配りで利用者サービスの向上
- 計画 3 運営者の支援力向上
- 計画 4 多様な危機管理能力の育成
- 計画 5 利用者の声を反映した公平な管理運営
- 計画6 経営の基盤となる会計・経理、総務分野の強化
- 計画 7 「小平市民活動支援センター事業計画」執行状況の年度内評価と、それに基づいた次年度計画の作成
- 計画8 活動の地域分散化と積極的に地域に出向く活動の推進

方針 IV 小川駅西口再開発ビルへの移転を契機に、全市的な視点に立った市民活動を推進する

- 計画1 移転への計画的な準備、及び発信
- 計画 2 各地域の特性を理解し、全市的な観点に立った市民活動の推進

- NPO 法人小平市民活動ネットワークがあすびあの指定管理者になって 13 年目(指定管理 3 期目の 5 年目、最終年)となりました。
- 2020 年 2 月から始まったコロナ禍が 3 年目となり、感染状況も落ち着いたことで、基本的な感染対策は継続しつつ徐々に対面開催を取り入れて事業を行ってきました。とはいえ、諸事情により会場に来られない方への門戸を開くため、Zoom とのバイブリッドで開催することを心掛けました。
- 学習の場としては、時代を反映した広報ツール "SNS"の使い方を学ぶ講座を企画し、年度後半にはそのフォローアップとしての交流サロンも実施しました。また、資金調達方法 "クラウドファンディング" や、自分の人生の棚卸しをして未来キャリアを考えるなどをテーマにしたタイムリーな講座を企画しました。一方、団体同士や市民活動に関心ある個人の交流の機会としては、学生の社会活動や、教育の場での市民活動の活用、ケアなどをテーマに企画しました。いずれもその内容に合わせて開催形態を対面開催かハイブリッドを選択して実施しました。
- コロナ禍で2年間オンラインのみで実施してきた元気村まつりウィークを、今年度は「参加団体数を半分、飲食は無し」という制限を設けて会場開催を1日実施しました。久しぶりの対面開催で、団体の方々や来場者の笑顔を見ることができました。世界情勢を反映し、ウクライナから避難来日している少女によるバンドゥーラ演奏会はたくさんの聴衆の心に響きました。舞台発表のオンライン配信や舞台装飾、駐車場誘導などに中高生の関わりを得られ、若者の力が好評価を得ました。オンラインも8日間実施し、参加団体は会場・オンライン合わせて50団体、特設サイトの閲覧者は約400名にのぼりました。
- こだいら人財の森事業では、昨年度に引き続き、事業説明会と講演会を兼ねた取り組みを年度末に行いました。今年度の講師に庄野真代さんを迎え、会場をルネこだいら中ホールとオンラインの 両方にしたことで、この事業に興味を持ってくれる層を広げることができました。
- 問合せや相談の内容はますます多岐に亘り、職員の対応力も向上しました。利用 者アンケートでは、コロナ禍のあすぴあの事業やサービスが一定程度評価されると共に、スタッフ の対応に対する満足度も引き続き高いことがわかりました。
- 半期のタイミングで事業計画の振り返りを運営会議で行い、次年度の事業計画に反映させました。
- "つなぐ"があすぴあ事業のキーワードですが、市内外の様々な動きや情報を知るにつけ、まだまだ手の及んでいない部分があることを感じます。前例踏襲にとどまらず、柔軟な発想で人と人とのつながりを作り続けていかねばならないと思いました。
- 今期指定管理5年間のうち半分以上がコロナ禍に翻弄された月日でした。その影響を受けて活動の 継続が叶わなくなった団体もあった一方で、それまで見えなかった様々な課題が顕在化し、その解 決のために新たに立ち上げられた団体もありました。そして、市民活動・地域活動は人と人とのつ ながりを作る上で、且つ、個人の心身の健康上も欠かせないものだと気づいた5年間でした。その ような市民活動が今後も多様に展開していけるように、間口の広い市民活動支援センターだからこ そできるサポートを今後もしていかねばならないと感じました。

施設・設備の利用状況

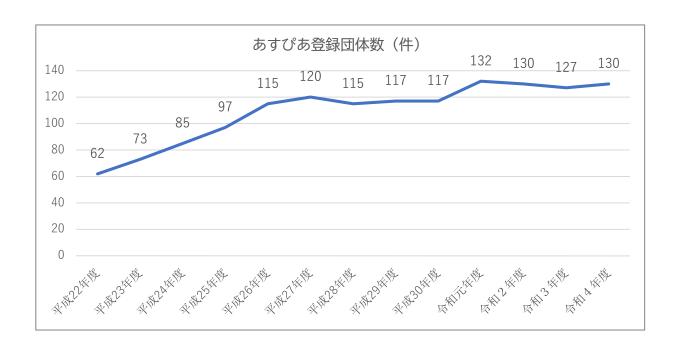
1. 登録団体

2022 年度は 127 団体でスタートし、新規登録 11 団体、取り下げ 8 団体で、年度末には 130 団体になりました。

2022 年度新規登録団体は以下の 11 団体です。

- ●Cancer おしゃべりカフェ(がんサロン)
- ●小平 ACT あったか小平
- ●グリーフサポートこだいら
- ●小平6小ウイングス
- **●**E b (イーフラット)
- ●社会福祉法人二葉保育園 二葉むさしが丘学園
- ●不登校・ひきこもりを考える会@小川西
- ●NPO 法人アンファン・ボンヌ
- ●NPO 法人カモミール
- ●小平市重症心身障害児(者)を守る会
- ●健康ピアノの会

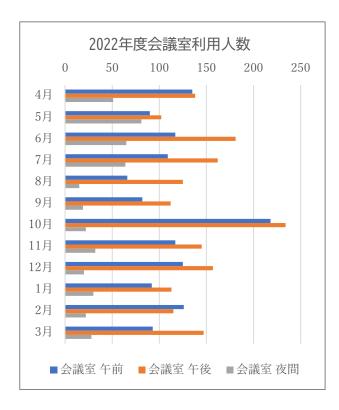
なお、2023年3月末の登録団体一覧は32~35ページを参照してください。



2. 施設および備品の利用状況

① 会議室&交流スペースの利用状況

単位:			 室			∧= I		
人	午前	午後	夜間	計	昼間	夜間	計	合計
4月	135	138	51	324	210	2	212	536
5月	90	102	81	273	217	5	222	495
6月	117	181	65	363	221	3	224	587
7月	109	162	64	335	189	6	195	530
8月	66	125	15	206	178	2	180	386
9月	82	112	19	213	203	0	203	416
10月	218	234	22	474	300	2	302	776
11月	117	145	32	294	190	4	194	488
12月	125	157	20	302	169	10	179	481
1月	92	113	30	235	194	5	199	434
2月	126	115	22	263	177	15	192	455
3月	93	147	28	268	227	3	230	498
計	1,370	1, 731	449	3,550	2, 475	57	2,532	6,082

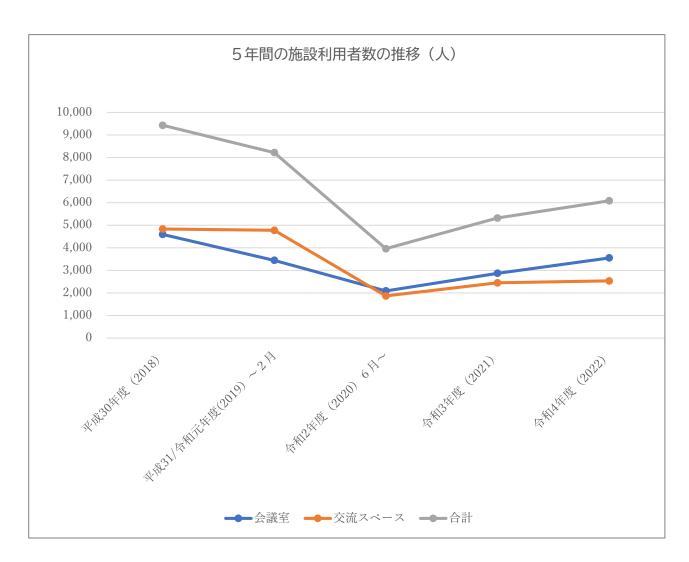




□ 過去5年間の利用者数の推移

コロナ禍で令和2年度は半分以下(平成30年度を100とすると会議室は45%、交流スペースは38%)にまで落ち込んだ利用者数も徐々に回復してきましたが、それでも全くの元通りになったわけではありません(令和4年度は会議室が平成30年度の77%、交流スペースは同52%)。あすぴあの利用登録を取り下げた団体もいれば、活動を縮小したり集まる頻度を減らしている団体も見受けられます。一方で、IT関連の団体の活動は頻繁に行われていました。

	平成 30 年度	平成 31/令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
単位:人	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)
会議室	4, 593	3, 443	2, 091	2,872	3, 550
交流スペース	4, 832	4, 773	1,866	2,449	2, 532
合計	9, 425	8, 216	3, 957	5, 321	6, 082



② 機器の利用状況

○リソグラフ印刷機:単色印刷の他に、黒・赤・青・緑の4色を組み合わせての多色刷りも可能です。また、パソコンとつないで USB メモリ内のデータを印刷することもできます。7月には登録団体向けに多色印刷の講習会を実施しました。

○**複写機**:事務所用コピー機で、カラー印刷等のサービスを実費負担で提供しています。



リソグラフ簡易印刷機

○貸し出しパソコン:印刷の前に版下原稿を修正できます。

○ラミネーター: 文房具店よりも安価に使えます。



ラミネーター



貸し出しパソコン

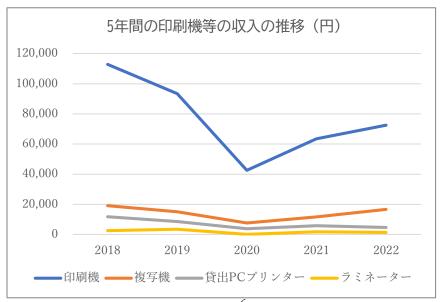


複写機

□ 過去 5 年間の印刷機等収入の推移

前ページの利用者数の推移と同様、団体の活動もだいぶ回復してきたことがわかりますが、すっかり 元通りになったわけではありません。

	2018	2019	2020	2021	2022	単価など
印刷機	¥112,890	¥93,390	¥42,560	¥63,510	¥72,520	マスター¥50/枚、印刷代¥20/100 枚
						*紙は持ち込み
複写機	¥19,120	¥15,060	¥7,630	¥11,710	¥16,650	白黒¥10/枚、
						カラー¥30 /枚(A4、A3 共)
貸出パソコン	¥11,810	¥8,610	¥3,780	¥5,820	¥4, 710	A4 モノクロ ¥10/枚
プリンター						
ラミネーター	¥2, 565	¥3,450	¥135	¥1,755	¥1,350	A3¥30/枚、A4¥15/枚



○その他の貸出備品

- ・大型モニターは IT 関係の団体によく利用されていました。
- ・オンライン対応のために揃えた機材を団体の活動に生かしてもらうため、昨年度導入した「ミーティングオウル」を使ったハイブリッド会議の開催方法の講習会を 7 月に実施、2 団体 3 名の参加がありました。
- ・アクリル板は、あすぴあ会議室だけでなく、登録団体が元気村館内にも借り出 して利用していました。



大型モニター



ミーティングオウル



音響機材



映像機材

○オンラインの支援

・昨年度に引き続き、指定管理者の理事や市民有志による「オンラインサポート研究会」の協力を得て、Zoom 利用支援会を毎月開催しました。Zoom アプリインストール&参加の仕方や主催の仕方の他、年度後半にはスマホや iPad で Zoomに参加する方法も支援メニューに加え、市報やあすぴあホームページ、指定管理者発行の市民活動情報紙「連」で告知しました。その結果、1年間でアプリインストール&参加の仕方5名、主催の仕方11名、スマホで参加2名、その他1名の計19名をサポートしました。ただ、2年目ともなるとコロナ禍初期ほどは需要がなくなり、一定程度の方々が習得した状況と判断して、今年度をもってこの取り組みを終了することにしました。



事業の実施状況

あすぴあの多くの事業は、市民感覚を活かすために市民が参加する事業部会で企画・運営しています。

イベント部会 パワーアップ講座や交流サロンの企画・実施					
広報部会	「あすぴあ通信」の取材・編集・発行				
フェスタ部会	元気村まつりの運営				

あすぴあの組織図

小平市民活動支援センター あすぴあ

●支援センター運営会議

回数:月1回

メンバー: NPO 法人小平市民活動 ネットワーク理事、事業部 会部会長

内容:支援センターの管理・運営 に関する基本方針を決定。 各部会からの報告を審議・ 承認。

●支援センター運営サポート会議

回数:年3回

メンバー:10~15名。半数程度を利用 登録団体とし、公募個人2名程 度、有識者、地域住民、小平市社 会福祉協議会こだいらボランティアセンター、小平市市民協働・ 男女参画推進課。

内容:支援センターの管理・運営に幅 広く意見を徴し、公平を保つた めの会議。その意見を運営の参 考とする。 ●利用者懇談会

年度末に1回程度。

●事業部会

- 1. イベント部会: 学習会 (講座・講演会)、市民活動交流サロンなどイベントの企画・運営
- 2. 広報部会:「あすびあ通信」の企画・取材・編集
- 3. フェスタ部会: 元気村まつり(NPOフェスタ)の企画・運営

*事業部会員は年度始めに市報で募集する。部会の開催時期・頻度等は個々に定める。また、部会は必要に応じて増やすこともできる。

●こだいら人財の森委員会

こだいら人財の森の運営

専門委員:マッチング事業の実施

●支援センター調整会議

回数:月1回以上 メンバー:市と指定管理者 内容:市と指定管理者との定期的協議の場。

※小平市民活動支援センターあすぴあは、NPO 法人小平市民活動ネットワークが指定管理者となって管理・運営されています。

1. 学習および交流の機会の提供

イベント部会で企画から運営までを担い、パワーアップ講座を4回、交流サロンを4回実施しました。 ハイブリッド開催のイベント(★印)では、リハーサルを行って当日に備えました。

		がで行うと当口に備えるした。
月	市民活動パワーアップ講座	市民活動交流サロン
4月		
5月		
6月	市民活動のための SNS 活用講座〜伝える、	
	その前に!「伝わる」情報発信って何?~	
	(2回連続)★	
7月		
8月		学生が参加する社会活動 in 小平★
9月	Word を使って思い通りのチラシづくり(3	
	回連続)	
10月		学校で活動する市民活動団体・ボランティア
		の交流会★
11月	市民活動のためのクラウドファンディング	
	実践講座(2回連続)★	
12月		
1月		明日に向かってセルフケア〜忙しい日々の
		中、ポッと彩り、ホッとする時間を~
2月		"SNS"こんなふうに使ってます★
3月	50 代からの自分再発見と未来キャリアの作	
	り方(1 日通し)	

① 学習会(市民活動パワーアップ講座)・講演会の開催

●第1回「市民活動のための SNS 活用講座

〜伝える、その前に!「伝わる」情報発信って何?〜」★ハイブリッド 講師:山田泰久さん(一般財団法人 非営利評価センター 業務執行理事)

2022年6月25日(土)、7月2日(土)(2回連続)

いずれも 13:30~15:30

会場:あすぴあ会議室&Zoom

参加者: 1回目 会場 11名 Zoom14名、2回目 会場 10名 Zoom11名

のべ参加人数 46 名





コロナ禍で SNS(Facebook、Twitter、Instagram などのソーシャル・ネットワーキング・サービス)の活用が大幅に伸びた社会状況を踏まえて、それぞれの特徴や効果とトラブル等の具体的な事例を知り、市民活動に役立てるための学習会を企画しました。定員を上回る申込みがありましたが、開講してみると、参加者のレベルの違い(まだ利用したことのない人、すでに利用していてより深く学びたい人など)によって満足度が異なる結果となりました。

●第2回「Word を使って思い通りのチラシづくり」

講師:惠晋一さん(帝京大学非常勤講師、小平 IT 推進市民グループ)

2022年9月17日(土)、24日(土)、10月1日(土)(3回連続)

いずれも 13:30~15:30

会場:元気村第一および第二会議室、あすびあ会議室

参加者:1日目11名、2日目6名、3日目7名 のべ24名、見学のべ4名



ネット印刷が手軽になりましたが、印刷入稿する際にはそれなりのルールがあります。そこで、本講座では、



簡単なようで難しい "Word"の作法を知り、まず全員がサンプル通りの ものを作り、スキルを会得した上で自分独自のチラシを作るという2段 構えの中級者対象の内容でした。そのためには事前予習が必要でしたが、 応募者の 2/3 が初級者だったため、講座に求められるスキルレベルの統 一が難しかったようです。講師と同じ団体から3名がサポーターとして 入り、また完成作品は講師のコメントを添えて10月の元気村まつり会場 で展示しました。

■第3回「市民活動のためのクラウドファンディング実践講座」

★ハイブリッド

講師: 1日目 宮本聡さん(一般社団法人あおい福祉 AI 研究所代表理事)

2日目 徳永健人さん(株式会社 READYFOR)

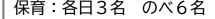
2022年11月26日(土)、12月3日(土)(2回連続)

いずれも 13:30~15:30

会場:あすぴあ会議室&Zoom

参加者: 1日目 会場7名、Zoom5名、2日目 会場6名、Zoom2名

のべ 20名



オンライン技術を使って不特定多数の人々から資金を集める「クラウドファンディング」がかなり一般的 になりましたが、具体的にどのように活用したらいいか不安もあり、第1歩を踏み出せない団体が多いので はないかと、2日連続講座として企画しました。

1日目は、クラウドファンディングの基礎知識やその進め方、寄付集めで大切なことについての講義を、 2日目は、プロジェクトの組み立て方とクラウドファンディング活用事例の紹介、ワークシートを使ってプ

ロジェクトを考えグループ内で披露するワークを行いました。

タイムリーなテーマで、受講者の年齢層も30代から70代までと幅広く、 また市外の方の参加もありました。アンケート回答では、約8割が「目的は 達成」となっていましたが、盛り沢山な内容で時間が十分とは言えなかった ようで、「よくわからなかった」方もいたようでした。

●第4回「50代からの自分再発見と未来キャリアの作り方」

講師:安部博枝さん(株式会社 abilight 代表取締役)

2023年3月11日(土) 10:00~16:30

会場:元気村第二会議室

参加者 8名



会社で働いているうちから退職後の人生を考えるために、キャリアデザインの基本や自分を取り巻く環境変化への適応、キャリアの振り返り、自分再発見などについて講義があった後、自分年表を書いたりグループワークを組み合わせ、また、あすぴあからの地域活動の紹介と、実際に地域活動をしている方々の経験談を紹介することで参考にしてもらいました。参加者には昼食を持参してもらい、1日通しての時間を共有することによって、より深いつながりを持てるようにしました。半年後にフォローアップの場を計画していることを予告したことも、交流を深めるモチベーションになったと思われます。



終了後のアンケートでは、チラシの訴求力が大きかったこと、狙い通りの年齢の方々が集ったこと、今まで地域活動をしたことがなかった方(6割)にもリーチできたということがわかりました。また、「講師の話がわかりやすく、今後のことを考える参考になった」と、全員が「満足」という評価でした。フォローアップの場までの間にさらに交流を深めたい方々にはメールアドレスの相互公開をしました。

② 市民活動交流サロンの開催

- ●第1回「学生が参加する社会活動 in 小平」★ハイブリッド ゲストスピーカー:
- ① 福本志濃夫さん (NPO 法人こだいら自由遊びの会 副代表)
- ② 四ヶ所香代さん(精神保健福祉ボランティアの会ひだまり 代表) 高橋功さん(同 副代表)

2022年8月27日(土) 13:30~15:30

会場:あすぴあ会議室&Zoom 参加者:会場7名、Zoom2名



小平には大学や大学校が多くあり、学生たちはさまざまな市民活動にボランティアとして参加しています。市の事業である NPO 体験セミナーでは、学生が NPO 活動に参加した体験報告をしていますが、団体側が彼らをどのように受け入れたのかは、今まであまり語られることがありませんでした。そこで、団体側に軸



足を置いた報告の場を持ち、その後の団体の活動への影響なども伺い、今後も学生と市民活動の交流が広がるきっかけにしたいと企画しました。

残念ながら、NPO 体験セミナーで市民活動を体験した学生の参加は1名、また申し込みも全体的に伸びませんでしたが、ゲストスピーカーの活動の場で紹介したところ、障がいのある方の参加を得られて交流できたことは、参加者がインクルージョンについても考えるきっかけになったと思います。

- ●第2回「学校で活動する市民活動団体・ボランティアの交流会」★ハイブリッド ゲストスピーカー:
- ① 廣瀬理恵子さん(放課後子ども教室十四小地区コーディネーター)
- ② 入江和美さん(NPO 法人シニアネットクラブ副理事長)
- ③ 貫井大輔さん(小平市社会福祉協議会こだいらボランティアセンター長) 戸谷さんご夫婦(視覚障がい者)海上玲子さん(ガイドヘルバー)

2022年10月29日(土) 13:30~15:30

参加者:10名



専門分野を生かして、学校で子どもたちを対象に活動している団体やボランティアの方々が増えていま



す。活動している方々だけでなく、それをコーディネートする方も交え て、学校ならではの工夫や苦労などを聞いて交流しました。

放課後子ども教室では、支援しているシニアの方々も喜びを感じていること、福祉体験学習では、長いこと関わってきたご夫妻が、子どもたちが成長しても交流が続いていることなど、予定時間をオーバーしてのお話になり、グループに分かれての交流まではできませんでしたが、有意義な時間になりました。

●第3回「明日に向かってセルフケア

~忙しい日々の中、ポッと彩り、ホッとする時間を~」

ゲストスピーカー: ①冨が原裕子さん(紡笑~つむえ~代表)

②鴨下徳子さん(アロマサロン代表)

2023年1月29日(日)13:30~15:30

会場:元気村第二会議室 参加者:14名 見学1名



育児や介護で日々忙しくしている方々を対象に、自分でもできるセルフケアの方法を実演付きで学ぶとともに、グループ内で交流することでゆったりと楽しむ時間を持つ大切さを実感してもらうことを目的に企画しました。冨が原さんにはアンガーマネジメントと呼吸法を教えてもらい、鴨下さんにはアロマやハーブティを提供してもらうとともに、自分へのタッチケアの大切さを説明してもらいました。加えて、いつも



と違う雰囲気作りのために、テーブルセッティングとして花の装飾や茶菓も提供しました。

終了後のアンケートで、「将来の介護に備えて」という参加動機を書かれた方が複数いたこと、参加者の半数以上があすびあを今まで知らなかったこと、全員が「目的を達成した」と満足度が高かったことがわかりました。地域包括支援センター中央センター長にも参加してもらい、相談窓口の周知をしてもらいました。また、FM ラジオ局の担当者が見学し、ゲスト二人のラジオ出演が決まりました。

●第4回「"SNS"こんなふうに使ってます」★ハイブリッド

ゲストスピーカー:①鴨下徳子さん(アロマサロン代表)

②安井忍さん(小平 IT 推進市民グループ)

③和田則夫さん(梶が谷工作倶楽部)

2023年2月25日(土) 13:30~15:30

会場:あすぴあ会議室および Zoom 参加者:会場6名、Zoom10名



6~7 月に開催した「市民活動のための SNS 活用講座」のフォローアップとして、講座終了後どのような変化があったのか、どんな活用をしてどんな困りごとがあったのかを講座受講者に話してもらい、サロン参加者にもそれを参考にしながら積極的に SNS を活用して市民活動の輪を広げてもらうことを目的に企画しま



した。鴨下さんと和田さんは、ホームページでは公式的な情報公開を、 ブログや Facebook では人とのつながりを主体に、と使い分けていること、 安井さんは、現在の活動でのホームページや Facebook の内容を話してく れました。後半のグループ交流では、シニアの方は LINE が主流であるこ と、SNS に対する恐怖心がまだまだあることがわかりました。 Zoom 参加 者の中に、友人数人が集まって参加している方々がおり、一つの参加形 態として面白い取り組みと感じました。

② 元気村まつりウィーク 2022 の開催



フェスタ部会が核となって参加団体と公募市民による実行委員会を組織し、3年 ぶりに会場開催も1日取り入れ、オンラインとのハイブリッドで開催しました。 会場はコロナ禍で密集しないように飲食の販売は無し、団体ブースや来場者の 規模を半分に縮小して実施しました。

日時 10月23日(日)~30日(日)8日間

場所 元気村おがわ東(会場)と元気村まつり特設サイト(オンライン) 参加団体 50団体

実行委員 18 名 (実行委員会 6 回、参加団体運営会議 2 回) 来場者 会場 500 人、サイト閲覧 389 人 (2,616 ページ閲覧、次ページ参照)

■ 10月23日(日)会場の実施内容

- ・舞台では、市長挨拶、コダレンジャーショー、参加団体による演奏やダンスを行いました。 また、ウクライナから避難来日しているアナスタシアさんを招き、民族楽器バンドゥーラ の演奏会とウクライナ支援の募金も行いました。
- ・参加団体のブースでは、パネル展示や活動体験、手作り品の販売などが行われました。



■ 10月23日(日)~30日(日)オンラインの実施内容

- ・特設サイトでは参加団体の活動を動画や写真で紹介しました。
- ・会場開催の舞台は、YouTube でライブ配信を行いました。
- ・まつりの予告動画や、実行委員によるリレーメッセージ動画を作成してサイトに掲載しました。
- ・10/26 (火) 萩元直樹さんによる講演会「新時代の市民活動 サスティナビリティ・トランスフォーメーションとまちづくり」を Zoom で実施し、まつり終了後もその録画を見られるようにサイトに掲載しました。

■ 10月30日(日)参加団体交流会(会場)

・まつり最終日に参加団体による交流会を行いました。20 団体が参加してまつりを振り返り、「久しぶりのリアル開催で楽しかった」「ウクライナの少女の演奏に感動した」「飲食が無くて残念だった」「団体ブースの来場者が少なかった」などの意見がありました。

■ 今年度の成果

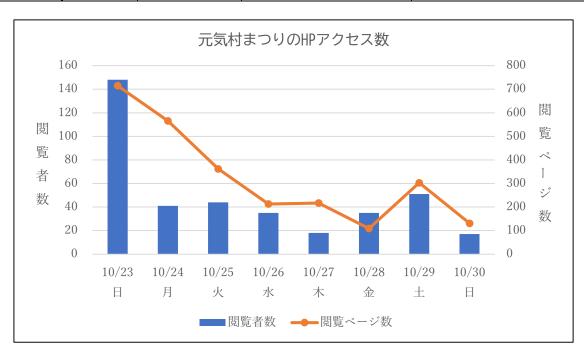
- ・特設サイトでの活動紹介では、団体が自分でデータを入力できるようにして、作業の効率化を図りました。
- ・実行委員の普段からのつながりを活かし、中高生の関わりをたくさん作ることができました。小平高校や小平一中の生徒さんには舞台や館内の装飾を、また二中パソコン部の生徒さんにはライブ配信や動画編集を、ボーイスカウトの皆さんには駐車・駐輪場の整備・誘導やテントの設営などに協力してもらいました。来場者にもとても好評でした。
- ・来場者アンケートも、積極的な声掛けと景品の効果もあって、例年より多い 125 枚回収できました。



■広報活動

- ・チラシは昨年同様6,000部用意し、自治会各班にも回覧しました。
- ・ポスターは、にじバス車内にも掲示してもらいました。
- ・FM ラジオ TOKY0854 に出演し、元気村まつりを PR しました。

	元気村まつりウィーク 2022 HP アクセス数									
日付	閲覧者数	閲覧ページ数	閲覧ページ数/閲覧者数	備考						
10/23 (日)	148	715	4.8	元気村会場開催						
10/24 (月)	41	566	13.8							
10/25(火)	44	362	8.2							
10/26 (水)	35	213	6.1							
10/27 (木)	18	217	12.1							
10/28 (金)	35	109	3.1	萩元直樹さん講演会 (オンライン)						
10/29 (土)	51	303	5.9	市民活動交流サロン(ハイブリッド)						
10/30 (日)	17	131	7.7	参加団体交流会 (会場)						
合 計	389	2, 616	6.7							
1日平均	49	327	6.7							



2. 市民活動の裾野の拡大事業 こだいら人財の森

2019 年 3 月のキックオフパーティから始まったこの事業も丸4年になりました。今年度も、東京都の「人生 100 年時代セカンドライフ応援事業」補助金を活用して、事業説明会および庄野真代さんの講演会を実施しました。企画および運営は、人財の森委員会*で検討しながら進めました。

*人財の森委員会:指定管理者の理事、あすびあ職員、小平市市民協働・男女参画推進課職員で構成

■ こだいら人財の森事業説明会 ~地域デビューで知らない地元がなじみのまちに~ 2023 年 3 月 5 日 (土) 13:30~15:30 ルネこだいら中ホール

コロナ感染症の拡大も下火になったので、今年度はハイブリッドで開催し、会場 115 名、Zoom25 名の計 140 名の参加がありました。小平市長のビデオメッセージのあと、第一部では、登録者個人と団体の方をお迎えし、専門員との鼎談による事業説明会を行いました。

第一部 事業説明会 進行:専門員・由井敬

《ゲスト》個人: 冨が原裕子さん

団体:四ヶ所香代さん(精神保健福祉ボランティアの会ひだまり代表)

《内 容》専門員から、登録の仕方や現在の登録状況などをパワー

ポイントとホームページを使って説明。個人の方には、どうして人財の森を知ったか、体験しようと思ったきっかけ、体験してどうだったか等を伺い、また団体の方には、活動の目的、どんな方々が参加しているか、人財の森からの紹介の方は今何をされているか、今日説明会に参加している方々へのアドバイス等を話してもらいました。

第二部 庄野真代さん講演会 演題「社会貢献は自分貢献! わくわくしよう!」

ご自身の半生の紹介から、音楽活動を通して多様なボランティア・社 会貢献活動に携わられている様子をお話しいただきました。「できる ことを、できる時に、できるだけ」「ボランティアは自分貢献」と締め くくられた講演会は、参加者の心に深く染み入ったことがアンケート から伺えました。



■ ホームページの利用促進

- ・団体からの要望で会員募集が一番多いことから昨年度規約を見直したことを受けて、今年度は会 員募集も積極的に掲載しました。
- ・イベントカレンダーも利用促進に向けて規約を見直し、掲載希望の提出をよりタイムリーにし、団 体登録者のイベントを積極的に掲載しました。

■ 今年度の実績

	2022 年度	累計
個人 経験・スキル等登録	4件	51 件
団体 スキル登録	2件	4件
団体 求める人材等	3件	26 件
マッチング成立	4件	18 件

3. 市民活動に関する情報の収集および提供

■あすぴあ通信

- ・広報部会は、コロナ禍でも極力対面中心で部会を開催して企画・取材・編集を行い、82~86 号までの 5 号を毎回 4000 部発行しました。
- ・都内のセンターや行政の担当部署にも送付しています。

あすびあ通信 82 号(2022 年 6 月末発行)

特集:子どもの遊びと学びをサポートする市民活動団体

1-3 面 団体紹介(どんぐりの会、びちち(美と知と地の祭典の略) NPO 法人こだいら自由遊びの会)

4面 あすぴあの書架から 『コミュニティマネジメントの教科書』を紹介 主催イベント (8 月交流サロン、9 月チラシづくり講座、Zoom 利用支援 会) の予告



あすびあ通信 83 号 (2022 年 9 月末発行)

- 1面 元気村まつりウィーク 2022 の予告
- 2-3 面 団体紹介(Learning Crisis 研究会 学びの危機プロジェクト まなキキ、おだまき(社会福祉法人つむぎ)、一般社団法人早期親子支援 GROW)
- 4面 あすぴあの書架から『みんなとおなじくできないよ 障がいのあるおとうとと ボクのはなし』

主催イベントの報告(6月 SNS 活用講座)と予告(10月交流サロン、11月クラウドファンディング実践講座)



<u>あすぴあ通信 84 号(2022 年 11 月末発行)</u>

特集:元気村まつりウィーク 2022

1面 こうしてまつりはできあがる

2-3 面 会場開催当日の様子を写真と取材で紹介

4面 元気村まつりウィーク参加団体一覧、

10/28 萩元さん講演会および 10/30 参加団体交流会の報告

来場者アンケートに寄せられた感想(抜粋)

主催イベント (9-10 月チラシづくり講座、10 月交流サロン) の報告、1 月交流サロンの予告



あすびあ通信 85 号 (2023 年 1 月末発行)

- 1面 困りごとを少しでも小さくするために相談できる場所、支援する場所
- 2-3 面 『市民活動団体一覧・むすぶ』を元に、誰でも楽しめる音楽関係の団体 8 団体を紹介
- 4面 あすぴあの書架から『ヤングケアラー 介護を担う子ども・若者の現実』を紹介 主催イベント(11 月クラウドファンディング講座)の報告、今後の講座やサロン(2月 SNS サロン、3 月人財の森事業説明会&講演会)の予告



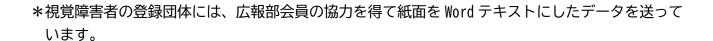
あすびあ通信 86 号 (2023 年 3 月末発行)

特集:あすびあの利用団体登録の勧め

1面 あすぴあ図書について

「あすぴあ通信」で紹介した本 (一部) のタイトル、借り方・返却方法、 図書館にない定期購読雑誌の紹介、「あすぴあの書架から」担当者の一言

- 2面 団体登録するとこんなことができます(施設利用や備品貸出について)
- 3面 イベントカレンダー、あすぴあ登録方法について、 こだいら人財の森事業説明会&庄野真代さん講演会の報告
- 4面 4つの事業部会の部会員募集と応募の仕方、終了したイベント(2月交流サロン)の報告、 『市民活動ガイドブック むすぶ』完成のお知らせ



*「あすぴあ通信」は以下のところに配布しています。

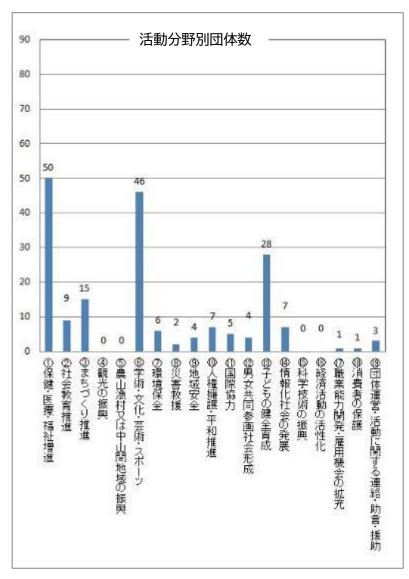
市内公民館、市内地域センター、市内図書館、東部・西部出張所、市役所1階資料コーナー、 地域振興部市民協働・男女参画推進課、国際交流協会、総合体育館、市内地域包括支援センター、 小平市社会福祉協議会こだいらボランティアセンター、福祉会館、昭和病院、健康センター、 小平市医師会、歯科医師会、西武薬剤師会、民生委員・民生児童委員、市議会議員、市内大学、 ルネこだいら、多摩信用金庫各支店、タウン通信、アサココ、都内のボランティア・市民活動支援 センター&行政担当課(一部)、元気村館内、あすぴあ登録団体、情報希望の個人、一部自治会、等



■令和5年度版『市民活動ガイドブック むすぶ ―市民活動団体―覧・情報―』

- ・ 小平市にはたくさんの市民活動団体があり、それぞれの目的に向かって多種多様な活動を繰り広げています。本冊子は、市内の活動団体すべてを網羅できているわけではありませんが、掲載を希望する団体は趣味のサークルまで幅広く受け入れていますので、何かを始めたいと思った方にとっては貴重な情報源となっています。また団体にとっては、自分たちの活動を大勢の人に知らせる媒体になります。あすぴあは、これによって団体や人々がつながり、小平市の市民活動がより一層豊かになることを願って本冊子を作っています。
- ・ 昨年度から、ホームページをメインにすることにしましたが、手にとって全体を一覧できる利点を 残すため、団体の名称や一行活動紹介文、連絡先、および団体設立と運営、資金調達などの参考資 料をまとめた冊子も 1,500 部発行してきました。
- ・ 10 月下旬から市報等で掲載情報の募集を開始しました。新規掲載団体が17団体あった一方、活動していない/活動縮小のためという理由で掲載を取りやめた団体や、連絡がなかなか取れない団体もあり、残念ながら昨年度より28団体減って、掲載は188団体となりました。
- 中央公民館主催のシルバー大学では、カリキュラムの一環である「地域活動リサーチ」で本冊子が活用されています。
- ・ 冊子は、あすぴあ窓口のほか、市役 所市民協働・男女参画推進課および 1階市政資料コーナー、中央公民館、 こだいらボランティアセンター、東 部・西部出張所で無料で配布してい ます。また、公民館地区館や地域セ ンター、図書館にも配布しているの で閲覧が可能です。図書館では貸し 出しもしています。





■市報掲載

- 今年度もあすぴあ主催のイベントや各種募集等をタイムリーに掲載しました。
- 6月20日号と2月5日号にはZoom利用支援会の案内を掲載しました。
- ・ 9月20日号1面で市民活動を特集し、あすぴあの紹介や元気村まつりの予告 を掲載しました。

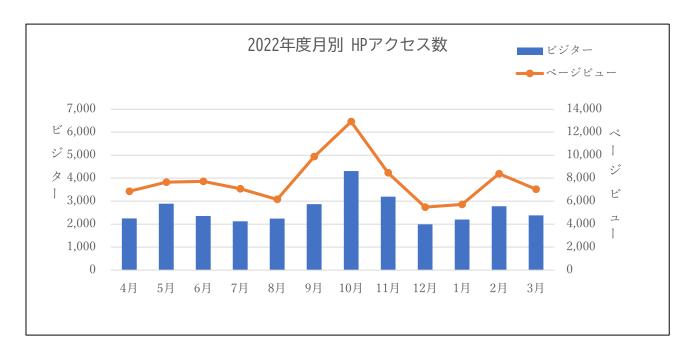
And the second s

■メディアリリース

- 地域のタウン紙(タウン通信、アサココ等)には、あすびあ通信やイベントのチラシを定期的に届け、取り上げてもらいました。
- ・ 地域 FM 局 TOKY0854 に出演し、元気村まつりウィーク 2022 や、こだいら人財の森事業説明会&庄 野真代さん講演会の PR をしました。

■ホームページの充実

- ・ イベントと連動したホームページのタイムリーな更新に務めました。
- ・ 元気村まつりウィーク 2022 では、別途特設サイトを設け、オンライン参加の団体が自分たちでサイト に入力できるように支援しました。



■メールマガジンの発行

- ・ 毎月月末に、あすぴあからのお知らせや主催イベントの予告を中心に、助成金情報やその他の情報 もピックアップして配信しました。末尾には職員が交代で執筆した「編集後記」を載せています。
- ・ 運営会議で、もっと読んでもらえるような魅力的なメルマガにするための工夫を協議し、改良しま した。
- ・ メルマガ登録数は、あすぴあ利用登録団体のほか、職員や指定管理者理事と名刺交換をした方々、 イベント参加者等々を随時加えて増加しています。
- ・ 各イベント終了後のアンケートでも、イベントを知った媒体としてチラシやポスターと並んで、メ ールマガジンが大事な広報媒体のひとつになっていることがわかります。

■Facebook の活用

- ホームページに連動させて随時アップするように努めました。
- ・ メールマガジンと同様、これもあすぴあの事業を周知する大事な広報媒体となっています。

■補助金・助成金等の情報収集・提供

- ・ あすぴあには、チラシやメール等でさまざまな助成金情報が送られてきます。館内に配架するほか、月末のメールマガジンでまとめて情報を配信すると同時に、ホームページ上にも掲載ならびに 更新し、該当する団体にも情報を随時提供しています。
- ・ 団体からの相談に応じて助成金を紹介したところ、採択されたと報告がありました。

■チラシ&ポスター等の情報提供

- あすぴあには、市内や都内のみならず他県からも郵送で情報が届きます。
- ・ あまり広くはないスペースを最大限活用して、より多くの情報を提供する よう務めました。廊下にも掲示板やチラシラック を設け、休館日にも手に取ることができるように しています。
- 保存チラシは、市内のものは団体別に、市外から の情報は行政区ごとに仕分けてファイリングし、 閲覧に供しています。





■閲覧用図書・資料の整備

今年度新たに増えた書籍や雑誌は以下の通りです。

〈書籍〉

- ○東京ボランティア・市民活動センター発行『市民社会をつくるボランタリーフォーラム 2021 報告書』
- ○松原明著『協力のテクノロジー:関係者の相利をはかるマネジメント』
- ○澁谷智子著『ヤングケアラー -介護を担う子ども・若者の現実-』
- ○NPO 会計支援センター発行『NPO 法人の解散手続きマニュアル』
- ○河内崇典著『ぼくは福祉で生きることにした おかあちゃんがくれた未来図』
- ○ブレイディみかこ著『他者の靴を履く -アナーキー・エンパシーのすすめー
- ○庄野真代著『庄野真代、支え合う社会を奏でたいー国境なき楽団からはじまった挑戦』
- ○小松成美著『虹色のチョーク 働く幸せを実現した町工場の奇跡』

〈定期購読雑誌〉

- ○社会福祉法人大阪ボランティア協会 発行 『ウォロ』
- ○東京ボランティア・市民活動センター発行 『ネットワーク』*詳細およびこれ以外の蔵書については、あすぴあのホームページをご覧ください。

■出張広報アクション



質問	はい	いいえ
あすぴあのイベントに参加したことがありますか?	5	9
地域で何か活動したい、社会の役にたちたいと思い ますか?	10	1
こだいら人財の森事業は、地域で何かしたい、社会 の役に立ちたい、地域とつながりたい人と市民活動	7	2
団体をつなぐ事業です。興味がありますか?		

市役所1階ロビー

- あすぴあの認知度向上と 10 月の元気村まつりウィーク 2022 の PR のために、9 月 26 日 (火) ~30
 - 日(金)、市役所 1 階ロビーにブースを構え、職員と理事有志で周知活動を行いました。毎年行っているシール式アンケートの結果を見ると、あすぴあのイベントには参加していなくても地域の活動に関心ある人や社会の役に立ちたいと思っている人が多いことがわかります。
- ・ 市役所以外の場所にも出向いて PR する必要を感じ、11 月のサークルフェア@中央公民館や、3 月のオール公民館まつり@中央公民館にもブース出展しました。



オール公民館まつり

■その他

・ 交流スペースでは、小平市のことが取り上げられた新聞やタウン誌の記事を「こだいらニュースピックアップコーナー」で紹介しました。



4. 問合せ・相談・支援

総数 55 件 … 受付方法:窓口 23 件、電話 27 件 *電話の後に本人来所によるダブりを含みます。

その他 (メール) 7件

支援形態:問い合わせ30件、相談21件,要望4件

相談者:個人17件

団体 38 件 (このうち、市役所各部署や市内他施設から 8 件、他市から 7 件) 内容内訳 *1 回の相談で複数内容を含む場合があるため、総件数を上回ります。

オンライン関連2件、パソコン一般5件、助成金5件、団体/活動立ち上げ6件、会計1件、人財の森4件、過去イベント5件、団体・人材の紹介希望4件、

福祉系5件、その他20件

- ・ 問合せや相談の内容はさまざまで、すぐ回答できるもの、日時を指定して来所してもらい対応するもの の他、何度かやりとりが続くものもあります。
- ・ 他市からの問合せで多かったのは、過去に実施した講座や講演会に関するものでした。
- ・ 市内他部署からの問合せ内容は多岐に亘っています。それら以外にも「他部署から紹介されたので」と 電話や相談に訪れる個人や団体も複数ありました。
- ・ 「福祉系」と分類したものの内容は、障がいのある方の就労(パソコン使用)に関する問合せが多かったです。この場合、「パソコン一般」にもカウントされています。
- ・ 内容内訳の「その他」の中身は、広報、団体運営、元気村施設に関する要望、場所(場)などに関して でした。

5. 利用者の要望・意見の把握

■運営サポート会議

- ・ センターの管理・運営を公平適正に行うために、公募市民、登録団体、有識者等で構成される会議を設け、幅広く意見を聴取する場を年3回(7月、11月、3月)夜間の時間帯に開催しています。今年度は3回ともハイブリッドで開催しました。
- ・ 第1回目では、あすびあの基本情報のほか今年度の事業計画を資料とし、それらに対して意見を伺いました。市内の企業との連携、人財の森事業のさらなる発展、学生へのアプローチの仕方等について活発な意見交換がありました。
- ・ 第2回目では、終了したばかりの元気村まつりウィーク 2022 を中心に意見を伺いました。今年の元気 村まつりは、学生たちがスタッフとしてたくさん参加したことについて活発な意見交換がありました。
- ・ 第3回目では、1年間の事業と利用者アンケート結果を報告した後、意見交換をしました。ニーズ調査 の大切さ、あすぴあのハブ機能を更に拡充する、若者の地域活動への主体的な関わりの進め方などにつ いて活発な意見交換が行われました。

■利用者懇談会

日時:2023年3月25日(土)13:30~15:00

場所:あすびあ会議室 参加者:会場5名

・事業報告概要版に基づいて1年間の流れを説明するとともに、利用者アンケートの結果を 報告しました。

・その後の交流タイムでは、それぞれの活動紹介や今後への要望をいただきました。

■利用者アンケート

【実施期間】2023年1月20日(金)~2月5日(日)17日間

【実施方法】

- (1) 電子媒体
 - ・利用登録団体にメール送信(メールの無い団体には郵送)
 - ・個人(メルマガ購読者、人財の森個人登録者、今年度のイベント参加者)にメール送信
 - ・ホームページに掲載
 - ・Facebook、メールマガジンでお知らせ
- (2)紙媒体
 - ・公共施設(公民館、地域センター、福祉会館)へ配布
 - ・会議室利用時に配布
 - ・交流スペースに置いて配布

【回収】107件(Google アンケートフォーム 50件、アンケート用紙 57件)

【アンケート項目】

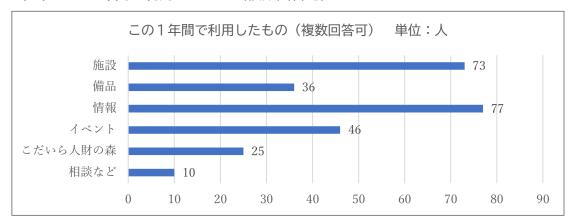
- (1)回答者の属性(住まい、年代)
- (2) この1年間の利用回数(初めて、月1回程度、月2回程度、月3回程度、利用していない)
- (3) この1年間の利用状況(施設、機材、情報、イベント、人財の森、相談など)
- (4)講座・学習会・講演会・交流会などで取り上げてほしいテーマ *今年度新設の設問
- (5)全体的な満足度
- (6) コロナ禍でのあすぴあの対応について意見
- (7)対面での活動について要望
- (8) その他、気づいた点、各事業への意見等

【結果概要】

(1) 属性

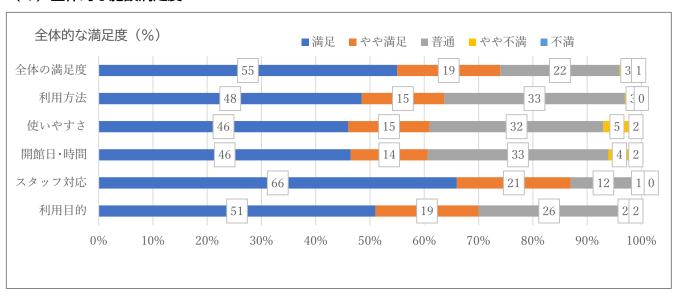
- ① 住まい:市内71%、市外17%、無記入12%
- ② 年代(多い順):70代32%、60代20%、50代17%、80代11%、40代7%、20代4%、30代1% 記入無し8%
- (2) この1年間の利用回数(多い順)
- ① 月1回41%、月2回18%、利用していない17%、初めて12%、月3回以上10%、記入無し2%
- ② 利用したことがない人の「どうだったら利用したいか」について(自由記述より抜粋)
 - ・何をしているところかわからない・セミナー動画を公開できれば

(3) この1年間で利用したもの(複数回答可)



- ・あすぴあの特徴は Wi-Fi 環境が整っていることです。それを利用するために利用登録する団体が複数ありました。交流スペースは、印刷後の作業や元気村まつりの準備で利用されることが増えてきました。また、ドリンクコーナーの復活を望む声も多く寄せられました。
- ・備品では、プロジェクターや大型モニターなど IT 関連の機材がよく利用されました。アクリル板は館内への貸し出しでも利用されています。
- ・情報では、あすぴあのイベントチラシや「あすぴあ通信」「むすぶ」だけでなく、ホームページも見られている他、 あすぴあからの各種メール、メールマガジンなども認識されていることがわかりました。
- ・イベントに関しては、元気村まつりが会場開催され、また当日行けなくてもオンラインで見ることができたこと が利用を増やしたようです。
- ・人財の森は、マッチングが功を奏し、活動のお手伝いをしてもらったことへのお礼コメントが複数寄せられました。

(4)全体的な施設満足度



・スタッフの対応について、他の設問を大きく上回る満足度だったことは喜ばしいことでした。

(5)回答方式による傾向

今回のアンケートでは、回答方式の違いによって傾向に差異が見られました。データ的にも Google50 件、 紙回答 57 件と、比較対象としては約1:1でしたので、大きな差異があった設問から一部を抜粋して紹介 します。(以下、Google 有効回答数n:Gn、紙有効回答数n:Kn と表記) *必ず1つ答えを選ぶ設問では、無記入の回答数を除いて集計しています。

【周知方法(再揭)】

(1) 電子媒体で

- ・利用登録団体にメール送信(メールの無い団体には郵送)
- ・個人(メルマガ購読者、人財の森個人登録者、過去のイベント参加者)にメール送信
- ・ホームページに掲載
- ・Facebook やメールマガジンでお知らせ

(2) 紙媒体で

- ・公共施設(公民館、地域センター、福祉会館)で配布
- ・会議室利用時に配布
- ・交流スペースに置いて配布

【回答方式】

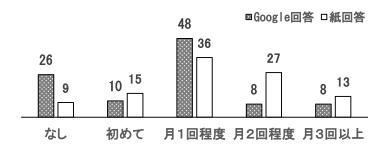
- (1) Google 回答: Google フォームへの入力
- (2) 紙回答: アンケート用紙に 記入し、あすぴあ窓口回収 箱へ投入、もしくはメール 添付で提出

◆属性 年代(%) Gn=50、Kn=48

	20代	30代	40 代	50代	60代	70代	80代
Google 回答	2	2	12	24	26	32	2
紙回答	6	0	4	13	17	38	23

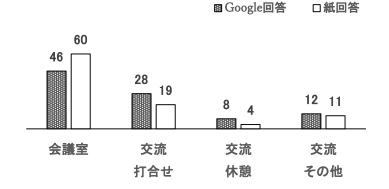
- ・年齢層で主に多かったのは、Google回答が「40~60 代」、紙回答が「70 代以上」でした。
- ・「20 代」は紙回答の方に多くいまし た。

◆1年間の利用回数(%) Gn=50、Kn=55



- ・Google 回答では、「利用なし」「月一回程 度」が紙回答より多くありました。
- ・紙回答では、「初めて」「月2回程度」「月3回以上」が Google 回答より多くありました。
- ・Google 回答の「利用したことがない」の 理由には、来館の必要性がなかったり場 所が遠方であること等が多く、利用の範 ちゅうにHPやチラシを利用するなど情報 を得ることがあまり念頭にないことが読 み取れました。

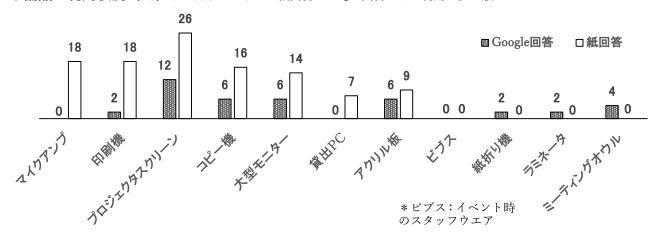
◆施設の利用状況(%) Gn=50、Kn=57



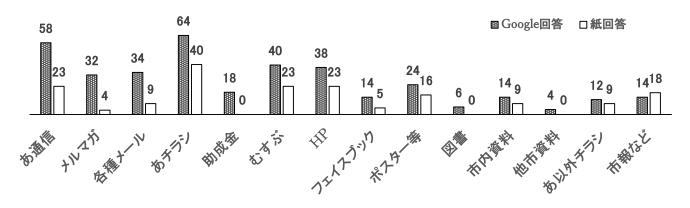
・期間中の会議室利用団体にアンケート 用紙を配布して協力をお願いしたた め、紙回答に会議室利用が多くありま した。

(注:交流=交流スペース)

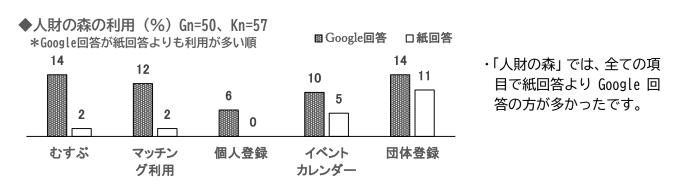
◆備品の利用状況(%) Gn=50、Kn=57 *紙回答がGoogle回答よりも利用が多い順



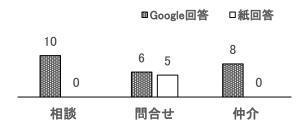
- ・「備品」で紙回答が Google 回答より 10 ポイント以上多い項目は、多い順に「マイク&アンプ」「印刷機」「プロジェクター&スクリーン」「コピー機」でした。
- ◆情報の利用状況(%) Gn=50、Kn=57 *Google回答が紙回答よりも利用が多い順



・「情報」で Google 回答が紙回答より 15 ポイント以上多い項目は、多い順に「あすびあ通信」「メールマガジン」「各種メール」「あすびあイベントチラシ」「助成金・補助金情報」「むすぶ」「HP」でした。Google 回答の方々はあすびあを主に情報源として利用している人が多いようです。



◆相談など(%) Gn=50、Kn=57

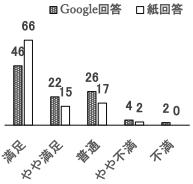


・「相談など」では、全ての項目で紙回答より Google 回答の方が多かったです。

◆施設や全体の満足度(%)

▼旭改《王体》》								
	回答 方法	回答 数	回答率	満足	やや 満足	普通	やや 不満	不満
利用方法	Google	50人	100%	42%	14%	38%	6%	0%
	紙	41 人	72%	56%	17%	27%	0%	0%
使いやすさ	Google	50人	100%	36%	16%	38%	8%	2%
	紙	42 人	74%	57%	14%	24%	2%	2%
日時の設定	Google	50人	100%	44%	10%	40%	2%	4%
	紙	41 人	72%	49%	20%	24%	7%	0%
スタッフ	Google	50人	100%	62%	24%	14%	0%	0%
対応	紙	42 人	74%	71%	17%	10%	2%	0%
目的達成度	Google	50人	100%	48%	16%	30%	4%	2%
	紙	40 人	70%	55%	23%	20%	0%	3%

全体の満足度(%) Gn=50、Kn=41



- ・すべての設問で、紙回答では「満足」を選ぶ人が Google 回答より多く、Google 回答では「普通」を選ぶ 人が紙回答より多くいました。また「不満」「やや不満」は Google 回答の方が多い傾向にありました。
- ◆記述項目への記述回答者数、及び、一人当たりの記述文の平均文字数について

※下段()内数字は一人当たり記述文の平均文字数

	利用 しない 理由	交流 スペース 利用例	利用へ の意見	テ-マ について	満足度 の意見	- Tag () Ta	対面への要望	気づき	平均
Google 50人	12 人 (23 字)	6人 (18字)	7人 (51字)	20 人 (28 字)	11 人 (48 字)	7人 (36字)	5人 (43字)	10 人 (47 字)	10 人 (37 字)
紙 57人	2人 (25字)	6人 (8字)	0人(0字)	4人 (18字)	5人 (18字)	5人 (20字)	5人 (24字)	6人 (24字)	4人 (17字)

・理由等ならびに意見・要望等の記述8項目について、Google 回答の方が全ての項目について記述率が高く、また1件あたりの文章も長い傾向にありました。その理由は、手書きよりも Google アンケートフォームの方が記入しやすいということがあるのかもしれません。

◆無回答の人数と割合の比較

	属性		利用	満足度					
	住まい	年代	回数	利用方法	使いやすさ	日時設定	スタッフ 対応	達成度	全体満足度
Google	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
50人	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
紙	13 人	9人	2人	16人	15 人	16 人	15人	17人	16 人
57人	23%	16%	4%	28%	26%	28%	26%	30%	28%

・上記の項目について、Google フォームでは必須項目にしたので全員が回答しましたが、紙媒体では「無記入」が2割程度ありました。今後、アンケート用紙を作る上で工夫する必要がありそうです。

【まとめ】

今回の分析によって、回答方式の違いによる両者の見方・考え方の違いの一端がわかりました。それらを 把握することで、それぞれの回答者の見えている部分をさらに推し進め、逆に見えていない部分へはどう アピールしていったらいいのかを検討していくことは、多様な市民へのアプローチという点でとても重 要なことと思われます。例えば、Google 回答の人たちへのあすぴあ施設・備品の利用の案内、紙回答の 人たちへの HP 活用のお誘い等、今後のあすぴあの広報全般を検討していく際の参考になると思いました。

6. 他機関・施設・組織との情報交換やネットワークづくり

■防災・危機管理活動

◇ 消防訓練

- ・ 自衛消防訓練は、5月に職員研修として実施しました。
- ・ 10月の元気村全体の消防訓練に職員2名が参加しました。

館内連絡会

- ・ 元気村村長が代わって、年度当初は毎月、その後は2ヶ月に1度、あすびあ交流スペースに館内のすべての施設職員が集まり、それぞれの事業や全体で共有すべきことを話し合いました。
- ◇ セキュリティ対策
- 近年増加傾向にあるスパムメールやマルウエアに対して、セキュリティを強化しました。

■地域連携活動

◇ AKVS(地域福祉活動および市民活動の中間支援に関する情報連絡会)

- ・ 市民活動の中間支援をする部署である、あすぴあ(A)、中央公民館(K)、社会福祉協議会こだいらボランティアセンター(V)、市民協働(S)が年2回程度集まって情報交換をしています。
- ・ 今年度は、あすぴあからの発案で、このつながりを活かして、それぞれの部署の職員全体まで対象を広げた研修交流会を実施しました。前提として、それぞれの部署の違いを理解するための一覧表を更新し、 共通理解を図りました。
- ・ その上で、12 月に「市民から寄せられる相談への対応について」をテーマに第 1 回職員研修交流会を 行い、実例を元にした対応の仕方を情報交換しました。あすぴあからは職員と理事計 6 名、4 部署合計 では 15 名の参加があり、これによって文字通り「顔の見える関係」が築けたことは大きな収穫でした。
- ・ 第2回研修交流会は、2月に「イベント企画の立て方、ノウハウの共有について」をテーマに行い、イベント部会員、職員、理事計4名が参加、4部署合計では12名の参加がありました。

◇ 中央公民館事業企画委員会

- ・ 中央公民館を利用している団体や市民、中間支援の部署の方々と公民館職員約20名が、翌年度の中央 公民館主催講座の企画を立案検討する会合で、4月から9月まで毎月1回行われました。
- ・ 企画内容は個人対象の社会教育的なものが中心ですが、講座後のサークル化を目指す公民館を受けて、 その後の団体運営はあすびあの事業が役立つことをアピールしたり、テーマによっては講師候補に市 民活動団体を紹介しました。

◇ 市民協働主催事業への協力・出席

- 5月の協働事業フォローアップ支援交流会は、ファシリテーターとして NPO 法人セイエン・関口宏聡氏 を紹介し、当日もあすびあから理事とセンター長が参加しました。
- ・ 大学連携協議会主催の「まちで楽しむ9」にも参加し、市内の大学に通う学生たちが行った地域活動の 報告を聞きました。
- ・ 「こだいら NPO 体験セミナー」には、学生の体験受け入れ団体として参加しました。6 月の出会いの場で 3 つの事業部会の体験メニューを紹介した結果、広報部会に 1 名の参加があり、「あすぴあ通信 83 号」で団体取材と原稿執筆を担ってくれました。
- ・ 上記イベントの広報や、提示型公募事業、いきいき協働事業の募集案内等にも協力しました。

◇ 自治会・町会等

- ・ 自治会・町会の一部区域に「あすぴあ通信」を配布、また元気村まつりと人財の森事業のチラシは市内 全自治会・町会に向けて班回覧を行いました。
- ・ 学園西町地区・学園東町地区地域連絡会(市民協働担当主催)が 1~2 月にかけて 2 回行われ、3 名が参加したほか、ハイブリッド会議のサポートを指定管理者理事が担いました。
- ・ 自治会地域懇談会(市民協働コミュニティ課主催)が6~7月と12~1月に行われ、オブザーバーとしてあすびあから運営会議メンバーが出席しました。

◇ 忘れない 3.11 展

- ・ 感染防止の制限が昨年度よりは緩和された中で、2023 年 3 月 7 日(火)~12 日 (日)に実施し、期間中の来場者数は約 1,400 名でした。アンケートではこの事業の継続を望む声が多く寄せられました。
- ・ あすぴあからは、全国で実施されている 3.11 関連のイベント情報を展示紹介しました。他所での活動から小平にヒントを貰えるように、また「東日本大震災を忘れてはいけない」という同じ思いを持つ仲間との連携のきっかけになればと思って継続的に紹介しています。また、常日頃からも、都内の防災・減災の情報が届くたびに、本企画の関係者にお知らせしています。



◇ 協力

▼NPO 法人小平シニアネットクラブ

2023 年 2 月初旬開催の「シニア世代のアソブとマナブ」できるん展」開催に向けて応援メッセージを寄稿しました。

▼嘉悦大学神酒ゼミ

1月開催の「プロジェクト企画実践 ギネス世界記録に挑戦」最終報告会の審査員を務めました。

▼公共施設マネジメント課

- ・7月、あすぴあ利用登録団体向けに、小川駅再開発ビルへ移転後の運営形態についての説明会を実施し、団体から6名の参加がありました。
- ・10 月、小川駅再開発ビルの駅前にぎわい広場に関するワークショップに運営会議メンバーが 2 名 参加しました。

7. 市外の諸機関との情報交換・交流

■東京ボランティア・市民活動センター

- ・センター長会議や事務局会議に出席し、他市区の支援センターと情報交換をしました。
- ・7月には、セルフヘルプグループへの支援について、ヒアリングの会合に出席しました。
- ・8月には、都内各センター職員の新任研修プログラム現場訪問を受け入れ、4名が来所しました。元気村まつり実行委員会を見学してもらった後、あすびあの事業全般の説明をしました。また、同プログラム最終日の報告会にも出席しました。

■8市・市民活動情報連絡会

- ・多摩地域の中間支援施設が情報交換のために半年に1回程度開いているもので、昨年度までのメンバー市 (八王子、日野、三鷹、西東京、府中、調布、小平)に今年度は町田が加わり8市になりました。
- ・幹事はセンター持ち回りで行い、今年度は7月に調布で、2月に日野で行われました。
- ・調布では、「様々な地域の居場所への関わり」、日野では「我が市はこれが自慢! 市民への市民活動周知、 デジタル化、他団体とのコラボ等の進め方など」をテーマに情報交換しました。組織のありようも職員体 制も異なりますが、事業の企画や進め方などは小平でも参考になることが多く、また、折に触れて個別に 相談し合える関係が構築されています。
- ・行政の担当部署の職員も同席可能で、市民活動を支援する官民の関係者が共通認識を持てる場です。
- ・6月、八王子市民活動支援センターから、企業から払い出された物品の提供申し出があり、あすぴあ登録 団体に紹介したところ、2団体が提供を受けることができました。

8. 施設見学の受け入れ等

■大学生のインターンシップ

今年度は、1日のインターンシップではなく、8月下旬に半日、大学3年生2名が市民協働担当職員と共に 来所し、施設見学とセンター事業の説明をしました。

9. 職員・理事・事業部会員の市民活動支援力の向上

■職員研修

・内部研修:4月 市民活動の引き継ぎ方を考える勉強会 計 18 名参加

5月 自衛消防訓練、リソグラフ多色印刷実習ほか 計 8名参加

・外部研修:12 月 AKVS 第 1 回職員研修交流会 計 6 名参加

テーマ「市民から寄せられる相談への対応について」

2月 AKVS 第 2 回職員研修交流会 計 5 名参加 テーマ「イベント企画の立て方、ノウハウの共有について」

■あすぴあ勉強会

コロナ禍のため、集まっての勉強会は実施しませんでした。

10. 登録団体一覧

登録番号	登録年	法人格/法人名	団体名			
1	H22		視覚障害者パソコン教室			
3	//		小平市けやきの会			
4	//		パソコン徒然草の会			
5	//	特定非営利活動法人	小平シニアネットクラブ			
7	//		はじめてのパソコンサークル			
11	//		小平図書館友の会			
13	//	社会福祉法人	地域生活支援センターあさやけ			
18	//	特定非営利活動法人	小平こども劇場			
21	//	特定非営利活動法人	匠リニューアル技術支援協会			
22	//	特定非営利活動法人	PIANT A TREE PLANT LOVE			
23	//		政治・知りたい、確かめ隊			
26	//		右脳いきいうブ			
27	//	特定非営利活動法人	ふれあいアカデミー			
29	//		インドな人口問題を考える会			
31	//		小平ターゲット・バードゴルフ協会			
32	//		うたごえ in 元気村			
33	//		ボーイスカウト小平第二団			
34	//		小平市女性のつどい			
35	//		たまの音楽家			
36	//		いきいき93			
37	//		精神保健福祉ボランティアの会 ひだまり			
39	//		こだいらDV防止ネットワーク			
40	//		萩山・小川団地九条の会			
44	//	特定非営利活動法人	ACTたすけあいワーカーズ小平らいふえいど			
45	//		小平IT推進市民グループ			
46	//	特定非営利活動法人	アトリエ・パンセ			
47	//		ボーイスカウト小平第一団			
48	//		ガールスカウト東京都第 176 団			
50	//		小平少年少女青空学校			
52	//		小平市障害者団体連絡会			
53	//	社会福祉法人	つむぎ おだまき			
54	//		合唱団「みらい」			
55	//		小平市自治基本条例市民の集い			
57	H23		自転車スイスイ			
60	H23		K. K. メンネルコール			

62	//	特定非営利活動法人	こども未来研究所 こあっぽあーと・あるあーと
65	//		ダンスパフォーマンス集団 迫-HAKU-
66	//		小平おもちゃの病院
70	//	公益社団法人	小平市シルバー人材センター
72	//	特定非営利活動法人	こだいら自由遊びの会
73	//		国立精神・神経医療研究センター病院家族会「むさしの会」
74	//	特定非営利活動法人	ラスキア
75	//		市民プラザこだいら
77	//	特定非営利活動法人	ぶる一べり一愛犬ふぁみり一協会
80	//		小平朗読教室「ひびき」
82	H24	認定特定非営利活動法人	だれもがともに小平ネットワーク
87	//	特定非営利活動法人	小平市民活動ネットワーク
89	//		小平ユネスコ協会
90	//		小平リカバリーフラッグ
91	//		熟年いきいき会
92	//		音の会
93	//		こだいら平和コンサート・合唱団どれみ
94	//		グリーン研究会
95	//		小平要約筆記サークル「ほおずき」
99	//	特定非営利活動法人	こだいらソーラー
101	//		小平都市計画道路に住民の意志を反映させる会
107	H25		アロマサロン
109	//	特定非営利活動法人	子育てサポートきらら
110	//		学び舎江戸東京ユネスコクラブ
111	//		やすらぎコンサート Sana (さ~な)
112	//		安心・安全ウォークネット塁
114	//		親業でグッドコミュニケーション ラ・ピース
116	//	一般社団法人	相続後見シニアサポート多摩
117	//		点字の会「てんとう虫」
120	H26		日本太極柔力球小平支部
121	//		さよなら原発 オール小平をめざす会
122	//	特定非営利活動法人	こども未来ラボ
123	//		小平市身体障害者協会
127	//		小平はぐくみプロジェクト
129	//		小平市脳卒中患者友の会
132	//		災害ボランティア未来
133	//		苔玉会
135	//		こだいら国際協力プロジェクト Seed

136	//		3. 11等に学ぶ小平の減災を考える会
137	H27		小平井戸の会
143	//		憲法カフェ@なかまちテラス
144	//		中央大学小平白門会
145	//		コーダー道場こだいら
147	//		ごはん&小麦の幸せ時間
1.10			ここぷらっと~こだいら・こども・こそだてプラット
148	//		フォーム~
151	H28		小平市民まちづくり互助会
153	//		小平市テニス協会
156	H29		小川体操
158	//		LPG
159	//	特定非営利活動法人	終活支援センター 桐中会 小平事務所
160	//		シルバー大学第30期〇B会
163	H30		小平シャイニング
167	//		みんなでつくる音楽祭 in 小平 実行委員会
168	H31		藍なり
169	//		Comi Cafe
170	R1		小平・ワーカーズまちの縁がわ ちっちゃいおうち
171	//		マジックむさし会
172	//		小平・環境の会
173	//		昔あそび応援団
174	//		平和と未来のひろば・小平実行委員会
175	//		鈴の会
176	//		ここ・ちあーず
177	//		小平スポーツ&カルチャーコミッション
178	//		東京ファシリテーションクラブ小平
182	//		にじいろパズル
183	//	認定特定非営利活動法人	コミュニティケアリンク東京
184	//		高齢者社交ダンス虹の会 社交ダンス普及会
185	//	一般社団法人	こだいら観光まちづくり協会
186	//		ヒッポファミリークラブ萩山
187	R2	一般社団法人	こみゅと小平
188	//		HP ブログサークル
189	//		津田塾大学インクルーシブ教育支援室
190	//		こだフォト部
191	R2		むさしの会
192	//		小平ユネスコ協会水曜
193	R3		虹の会

194	//		ウォーキング de ゴミひろい協会
195	//	一般社団法人	ひだまりの会
196	//		ワーカーズコープ小平 JAM キッズ事業所
197	//		少年少女キャンプ村
199	//	一般社団法人	早期親子支援 GROW
200	//	特定非営利活動法人	My style@
201	//		小平東圏域オレンジの会
202	//		IT サポートサークル小平
203	R4		Cancer おしゃべりカフェ(がんサロン)
204	//		小平 ACT あったか小平
205	//		グリーフサポートこだいら
206	//		小平6小ウィングス
207	//		Eb (イーフラット)
208	//	社会福祉法人	二葉保育園 二葉むさしが丘学園
209	//		不登校・ひきこもりを考える会@小川西
210	//	特定非営利活動法人	アンファン・ボンヌ
211	//	特定非営利活動法人	カモミール
212	//		小平市重症心身障害児(者)を守る会
213	//		健康ピアノの会

令和4年度末 あすぴあ登録団体数 130

11. 経費の収支状況

令和 4 年度経費収支状況 単位			
	令和 4 年度実績	内訳	
収入合計	16, 530, 980		
1 指定管理料	16, 399, 920		
2 雑収入	131,060	印刷機・コピー機・プリンター使用料	
経費合計	18, 638, 091		
1 人件費	11, 996, 296	常駐スタッフ昼間2名、夜間1名、センター長の給与手当等	
2 事務費	58, 708	文房具、用紙、カラープリンターインク	
		印刷製本費、通信運搬費、消耗品費、消耗什器備品費、	
3 管理費	4, 284, 648	コピー機・パソコン等賃借料、保険料、諸謝金、雑費、	
		支払手数料、一般管理費、租税公課(消費税等)	
		市民活動パワーアップ講座、市民活動交流サロン、NPOフ	
4 事業費	2, 298, 439	ェスタ、閲覧用図書、あすぴあ通信、むすぶ、こだいら人財	
		の森等	

